



常呂川森林ふれあい推進センター

流水で有名なオホーツク地域に厳しい冬がやってきました。

当センターは、冬の間、他機関の団体が主催するイベントの支援協力が主な活動となります。今年度も残り数ヶ月ですが、厳しい寒さに負けず、地域の森林ふれあい事業の連携に職員一同取り組んで参ります。

今回は、今年度、センターで実施した森林環境教育や学習会をご紹介します。

■ ワッカネイチャースクール

7月1日、網走国定公園内のワッカ原生花園において、常呂小学校3年生15人が参加して森林教室を行いました。



準備運動を兼ねたミニゲーム

当日は天気にも恵まれ、児童たちは3班に分かれて、双眼鏡や虫眼鏡を使って植物や鳥を観察し、ネイチャージームで自然を楽しみながら、約2時間にわたる園内を散策しました。

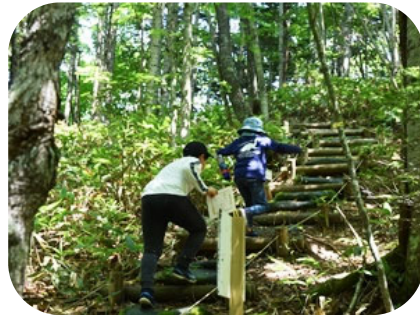


真剣に観察記録

■ オホーツクの森子ども探検隊

7月30日、北見市国有林内「オホーツクの森」において、子どもたちが自然に親しむイベント「オホーツクの森子ども探検隊」を行いました。当日は、一般公募により北見市内の小学生12名が参加し、隊員に扮した子どもたちは、手渡された探検ノート(ピンゴカード)のミッション

に挑戦しました。「セミのぬけがらがあつた!」「赤いキノコを見つけたい!」と楽しそうな声があがっていました。



探検ノートを手にとってミッション挑戦

午後からは、落ち葉や木の実を材料にそれぞれ思い描いた森の万華鏡を作成。森林の中での遊び体験を



森の万華鏡づくり

通じて、自然に親しんだ一日を過ごしました。

■ 網走市主催行事をサポート

9月10日、網走市主催の地元の子どもたちが参加するイベント、あばしり学ロセトコース「あばしり探検隊!」(秋の野山を探検!)をサポートしました。

今回は森の巨人たち百選に選定されている「美岬のヤチダモ」周辺の遊歩道を巡りながら、木々に触れたり匂いを嗅いで自然とのふれあいを楽しみました。

また、木の実や小枝を使った木工クラフトを行い、自然のぬくもりと工作の楽しさを感じていました。



松ぼっくりと小枝を組み合わせて木工クラフト